編集規程〔2014年1月作成〕

1. 本誌は，立教比較文明学会の紀要であり，1年に1号発行する．
2. 本誌は，原則として本会会員の研究の発表にあてる．
3. 本誌の掲載原稿は，投稿原稿と依頼原稿とからなる．
4. 提出された原稿，データ等は返却しない．
5. 本誌に掲載された著作物は，原則として立教大学リポジトリに登録し，公開する．

投稿規定〔2014年1月作成，2017年1月修正〕

1. 立教比較文明学会の会員，もしくは立教大学大学院文学研究科比較文明学専攻専任教員の推薦を受けた者は本誌に投稿することができる．
2. 原稿は，他に未発表のもので，かつ内容がオリジナルなものであること．
3. 区分は，論文，研究ノート，書評とする．
4. 本文，図表，注，参考文献をふくめて，論文は20,000字以内，研究ノートは12,000字以内，書評は8,000字以内とする．
5. 原稿の書式については所定の執筆要項にしたがうこと．
6. 第18号（2018年2月刊行予定）に投稿する際は次の提出方法にしたがうこと．

   (1) 直接持ち込みの場合

   原稿3部と，USBメモリまたはCD-R ／ DVD-Rに保存したテキストファイルを，立教大学池袋キャンパス ロイドホール（18号館）5階文学部サポートセンターに提出すること．

   ・原稿3部とテキストファイルには，原稿の表題と区分，氏

名（アルファベット表記を併記 RIKKYO Taro），所属，住所，電話番号，e-mailアドレスを明記すること．なお，記載された個人情報は査読結果や論文掲載に関わる事務連絡に使用するので，連絡のつきやすい情報を記載すること．

・2017年10月10日（火）の13時から17時のあいだに提出すること．これより以前に提出を希望する場合は，事前に編集委員会に相談すること．

（2）**郵送の場合**

原稿3部と，USBメモリまたはCD-R／DVD-Rに保存したテキストファイルを，〈〒171-8501 東京都豊島区西池袋3-34-1　立教大学教務部学部事務1課気付 立教比較文明学会編集委員会〉宛に，配達記録で郵送すること．

・原稿3部とテキストファイルには，原稿の表題と区分，氏名（アルファベット表記を併記 RIKKYO Taro），所属，住所，電話番号，e-mailアドレスを明記すること．なお，記載された個人情報は査読結果や論文掲載に関わる事務連絡に使用するので，連絡のつきやすい情報を記載すること．

・封筒には〈『境界を越えて――比較文明学の現在』原稿在中〉と朱書きすること．

・2017年10月10日（火）消印有効とする．ただし，同年9月6日（水）以前の郵送は受け付けない．

7. 投稿原稿の掲載の可否については，立教大学大学院文学研究科比較文明学専攻専任教員によって構成する査読委員会が行う．

〈査読委員会（あいうえお順）〉

小野正嗣教授　菅野聡美教授　佐々木一也教授

林文孝教授　林みどり教授　福嶋亮大准教授

執筆要項〔2014年1月作成，2017年1月修正〕

1. 原稿はA4判横書きとし，ワープロソフトで作成するものとする．
2. 文字の大きさは，本文，注，参考文献ともに11ポイントとする．
3. 句読点は，原則として全角の「．」と全角の「，」を使用すること．
4. 欧文および算用数字は半角文字を使用すること．その場合には句読点（punctuation: periods, commas, colons and semicolons）もカッコ（parentheses）も半角文字を用いること．
5. 本文には，適宜，見出しおよび小見出しをつけること．見出しの前後には1行のスペースを入れ，小見出しの場合は前に1行のスペースを入れること．
6. 他の論者に言及する場合，初出時にはその氏名はフルネームで記載すること．外国人に言及する場合も同じく初出時にはフルネーム（ファーストネーム，ミドルネーム，ラストネームの順）を記載すること．カタカナ表記（たとえば，カール・マルクス），アルファベット表記（K. Marx），混合表記（K. マルクス）のいずれでも構わないが，ひとつの論文のなかで一貫させること．
7. 引用文において省略を示す際は，……（三点リーダ2つ）を用いること．・・・（ナカグロの連打）や，……（ピリオドの連打）などで代用してはならない．ただし，引用文のなかに三点リーダが使用されていて紛らわしくなるなどの場合には，（中略）としてもよい．……（中略）……のように混ぜた表記はしないこと．
8. 文献注，参考文献以外で文献のページ数を示す必要があるときは「p.」「pp.」を用いて記し，それが文末に位置する場合は，「p.1.」「pp.1-3.」のように末尾にピリオドを打つこと．
9. 図表については，次の点を厳守すること．
   - 表には，表1，表2などと順に番号をふり，表頭中央に題名をつける．題名はゴシック体とする．
   - 図には，図1，図2などと順に番号をふり，図下中央に題名をつける．題名はゴシック体とする．

・出典を明示する．
・図表はそれぞれ1点ごとに別紙に印字し，図表の挿入位置を【表1挿入】などと原稿中に明記する．
・図はそのまま版下として使えるように，執筆者の責任で別紙に作成し，オリジナルおよび仕上がり寸法大のコピーを提出する．著作権者の了解を得ることなく，他者の図版を転用してはならない．
・地図や写真を使用する場合も，図表の記載法に準ずる．

10．注については，原則として次の記載法にしたがうこと．
・参考文献と別にし，本文の末尾にまとめて記載する．
・注番号は本文中の当該箇所に，[1]のように上付き文字でふる．
・注番号がカッコ記号と連接する場合には，「……」[2]のようにカッコ記号の後ろにふる．
・注番号が句読点と連接する場合には，……[3]，……[4]．のように句読点の前にふる．

11．文献注については，原則として次の記載法にしたがうこと．
・引用した際にはかならず文献注をつけ，典拠した文献を明示する．
・文献から直接の引用をせずに，他の研究者の業績に言及しただけの場合や自分の言葉でまとめなおした場合でも，かならず文献注をつける．
・文献注は後述の参考文献と連動するものであり，全角の丸カッコを用いて（著者名 出版年）のかたちで表記する．著者名は原則として姓だけを記載し，著者名と出版年のあいだには半角のスペースを入れる．
・文献からの引用をおこなった場合には，（著者名 出版年: 引用ページ数）のかたちで引用ページを明記する．出版年と引用ページ数のあいだは半角コロンと半角スペースでつなぐ．
・共著者は，日本語文献の場合はナカグロでつなぎ，英語の文献の場合は&（半角）でつなぐ（英語以外の場合，たとえばドイツ語文献の場合はund，フランス語文献の場合はet，等々でもよい）．
・訳書は（原典著者名 原典の出版年=訳書の出版年）のかたちで表記する．

・この記載法によるとかえって煩雑になる場合には（たとえば，学説研究などで同一文献からの引用頻度が非常に高い等々），別途の記載法を考案してもよい．ただし，注ないしは凡例などでその旨をかならず明記すること．

以下に例を示す．

（1）単著

（小林 1998: 128），（Heidegger 1927: 145-8）

同一著者の同じ出版年の文献が複数ある場合：（森 1998a），（森 1998b: 1-3）

同一著者の複数の文献を参照した場合：（見田 1979，1984）

異なる著者の複数の文献を参照した場合：（奥田 1983; 倉沢編 1990; 高橋編 1992）

（2）共著

（木村・里田 2010: 78），（Cohen & Arato 1981: 52-7）

共著者が3人以上の場合：（高橋ほか 1965），（Zald et al. 1995）

（3）編書

編者が1人の場合：（栗原編 1996: 32），（Hall ed. 1979: 87）

編者が2人の場合：（宮島・梶田編 1991: 50），（Hall & Donald eds. 1986: 7）

編者が3人以上の場合：（船橋ほか編 1998: 34），（Hall et al. eds. 1982: 76）

（4）訳書

（Goffman 1961=1984）

ページ数を示す場合：（Goffman 1961: 86=1984: 78）

（5）初版の出版年を示す場合

学説史を議論する場合など，初版の出版年が問題となるにもかかわらず，参照可能であるのは第3版のみである，といったことがありうる．このような場合は，（Marx [1844] 1932）や（吉田 [1974] 1990）のように，（著者名 [初版の出版年] 実際に参照した文献の出版年）のかたちで記載する．ページ数を示す場合は（Marx [1844] 1932: 48）のよ

うに，これに訳書の情報をつける際は（Marx [1844] 1932 : 48=1964: 65）のように記す．

12．参考文献については，原則として次の記載法にしたがうこと．

・注の後に，日本語文献と外国語文献とに分けて記載する．
・日本語文献の場合は著者の姓のあいうえお順に，外国語文献の場合は著者の姓のアルファベット順に並べる．
・ひとつの文献の記載が複数行にわたる場合には，2行目以降は全角で2文字分字下げする．
・同一著者の複数の文献を記載するときは，2番目以降の文献の表示には，著者名の代わりに，————（4倍ダッシュ）を用いる．
・ホームページやブログなど，ウェブサイト上に掲載された文書についても紙媒体と同様な文献情報を記載する．

■日本語文献

・文献の記載にあたっては，出版年と巻号およびページの数字と一部のカッコ記号を入力する以外は，カンマ，ピリオドも全角文字で入力する．
・主タイトルとサブタイトルのあいだは，——（2倍ダッシュ）でつなぐ．ただし，講座名など，必ずしもサブタイトルとはいえない語句と書名とが併記されている場合は，たとえば，『講座社会学 12 環境』というかたちで，基本的には奥付に記載されたままを記入し，各語句のあいだに半角のスペースを入れる．「新版」「第2版」などの書誌情報も同様に扱う．
・共著者は，日本語文献の場合はナカグロでつなぎ，英語の文献の場合は&（半角）でつなぐ．
・邦訳文献においては，著者の氏名はファミリーネームを先にし（アルファベット順に並べるため），ファーストネームとのあいだに全角カンマ「,」を入れる．著者が複数名にわたる場合は，&（全角）でつないだあと，共著者について通常の語順のままファーストネーム，ファミリーネームの順に記し，そのあいだにナカグロを入れる．
・本の判が新書や文庫であっても，たとえば，ちくま新書や岩波文

庫とは書かずに，筑摩書房，岩波書店などと，出版社名を記載する．

以下に例を示す．

(1) 単著・共著

著者名，出版年，『主タイトル――サブタイトル』出版社名．
イ・ヨンスク，1996，『「国語」という思想――近代日本の言語認識』岩波書店． 小熊英二，1995，『単一民族神話の起源――〈日本人〉の自画像の系譜』新曜社． 真木悠介，1977a，『現代社会の存立構造』筑摩書房． ――――，1977b，『気流の鳴る音』筑摩書房． 宮島喬・梶田孝道・伊藤るり，1985，『先進社会のジレンマ』有斐閣． ドゥルーズ，ジル＆クレール・パルネ，2011，江川隆男・増田靖彦訳『ディアローグ――ドゥルーズの思想』河出書房新社．

(2) 編書

編者名編，出版年，『タイトル』出版社名．
高坂健次・厚東洋輔編，1998，『講座社会学 1 理論と方法』東京大学出版会．

(3) 編書論文

著者名，出版年，「論文のタイトル」編者名編『本のタイトル』出版社名，論文の初ページ-終ページ．
舩橋晴俊，1998，「環境問題の未来と社会変動――社会の自己破壊性と自己組織性」舩橋晴俊・飯島伸子編『講座社会学 12 環境』東京大学出版会，191-224． 高橋徹，1965，「日本における社会心理学の形成」高橋徹・富永健一・佐藤毅『社会心理学の形成』培風館，317-505．

・共著の本に収録された論文についても編書論文と同様に記載する．ただし『本のタイトル』の前におく共著者名に「編」はつけないこと．

(4) 雑誌論文

著者名，出版年，「論文のタイトル」『雑誌名』巻(号): 論文の初ページ-終ページ.
桜井厚，1993，「ライフヒストリー調査雑感」『三色旗』慶應通信，549: 11-4. 保苅実，2002，「アンチ・マイノリティ・ヒストリー——ローカルかつグローバルな歴史へ向けて」『現代思想』30(1)：20-32.

・原則として雑誌論文の場合は出版社名（発行元）を記載する必要はないが，雑誌名だけでは発行元がわかりにくいときは『雑誌名』の後に発行元を記載すること.

■外国語文献

・文献の記載にあたっては，すべて半角文字（欧文モード）で入力する.
・主タイトルとサブタイトルのあいだは，半角コロンと半角スペースでつなぐ.
・共著においては，ファーストオーサーの氏名はファミリーネームを先にするが（アルファベット順に並べるため），共著者の氏名については通常の語順のまま（ファーストネーム，ミドルネーム，ラストネームの順）とする.
・著者が複数名にわたる場合は&（半角）でつなぐ.

以下に例を示す.

(1) 単著・共著

著者のファミリーネーム, ファーストネーム ミドルネーム, 出版年, *主タイトル: サブタイトル*, 出版都市名: 出版社名.
Broadbent, Jeffrey, 1998, *Environmental Politics in Japan: Networks of Power and Protest*, New York: Cambridge University Press. Berger, Peter L. & Brigitte Berger, 1972, *Sociology: A Biographical Approach*, New York: Basic Books.

・主タイトルとサブタイトルはイタリック体にすること.

(2) 編書

編者名 ed., 出版年,*タイトル*, 出版都市名: 出版社名.
Douglas, Jack ed., 1970, *Understanding Everyday Life*, Chicago: Aldine. Rubington, Earl & Martin Weinberg eds., 1965, *Deviance: The International Perspective*, New York: Macmillan.

・編者名の後にed.を入れること．ただし，編者が団体であるときはed.の記載を省略してもよい（省略するかしないかひとつの論文のなかで一貫させること）.
・編者が複数の場合は，編者名の後にeds.を入れること.

(3) 編書論文

著者名, 出版年, “論文のタイトル,” 編者名 ed., *本のタイトル*, 出版都市名: 出版社名, 論文の初ページ-終ページ.
Mayer, Margit & Poland Roth, 1995, “New Social Movements and the Transformation to Post-Fordist Society,” Marcy Darnovsky, Barbara Epstein & Richard Flacks eds., *Cultural Politics and Social Movements*, Philadelphia: Temple University Press, 299-319.

・編者の氏名は，ファミリーネームを先にせず，通常の語順のまま（ファーストネーム，ミドルネーム，ラストネーム）とする.
・収録論文のタイトルに“　　”をつけ（イタリック体にはしない），編書名をイタリック体にすること.

(4) 雑誌論文

著者名, 出版年, “論文のタイトル,” *雑誌名*, 巻(号): 論文の初ページ-終ページ.
Duara, Orasenjit, 1991, “Knowledge and Power in the Discourse of Modernity: The Campaigns Against Popular Religion in Early Twentieth Century China,” *The Journal of Asian Studies*, 50(1): 67-83.

・収録論文のタイトルに“　　”をつけ（イタリック体にはしない），雑誌名をイタリック体にすること.

(5) 初版の出版年を示す場合

実際に参照した文献の出版年の前に半角の角カッコ[　　]を用いて初版の出版年を記入し，タイトルの後に版数を記載すること．

著者名, [初版の出版年] 実際に参照した文献の出版年, *タイトル*, 版数, 出版都市名: 出版社名.

Simpson, George Eaton & John Milton Yinger, [1953] 1972, *Racial and Cultural Minorities: An Analysis of Prejudice and Discrimination*, 4th ed., New York: Harper & Row.

(6) 邦訳文献を併記する場合

邦訳書，邦訳論文のいずれの場合も，原典の書誌情報の記載について，全角の丸カッコ内に（＝　　.）のかたちで邦訳文献の書誌情報を記すこと．

原典の書誌情報.（＝翻訳の出版年，訳者名訳『邦訳書のタイトル』出版社名.）

Fromm, Erich, 1941, *Escape from Freedom*, New York: Holt, Rinehart and Winston.（＝1951，日高六郎訳『自由からの逃走』東京創元社.）

原典の書誌情報.（＝翻訳の出版年，訳者名訳「邦訳論文のタイトル」所収書の編者名編『所収書のタイトル』出版社名，邦訳論文の初ページ-終ページ.）

McCarthy, John D. & Mayer N. Zald, 1977, "Resource Mobilization and Social Movements: A Partial Theory," *American Journal of Sociology*, 82(6): 1212-41.（＝ 1989, 片桐新自訳「社会運動の合理的理論」塩原勉編『資源動員と組織戦略――運動論の新パラダイム』新曜社，21-58.）

■ウェブサイト上に掲載された文書

著者名,「ウェブページのタイトル」，ウェブサイト名，（取得日，URL）.

立教比較文明学会，2013，「立教比較文明学会について」，立教比較文明学会ホームページ，（2013年12月18日取得，http://www.rikkyo.ac.jp/hikakubunmei/about/meeting.html）.
著者名, “ウェブページのタイトル,” ウェブサイト名, 所在地: サイト運営機関名,（取得日, URL）.
American Sociological Association, “Status Committees,” Washington, DC: American Sociological Association, (Retrieved December 12, 2006, http://www.asanet.org/cs/root/leftnav/committees/committees).

・ウェブサイト名（サイト全体のタイトル）とサイト運営機関名については不明な場合は省略可.

13. 字数を計算する場合，本文，見出し，小見出し，注，文献リスト，図表を合計した文字数とする．スペースは含めずに，ワープロソフトの文字カウントにより算出すること．図表はA5判1頁大＝1,000字相当，1/2頁大＝500字相当，1/4頁大＝250字相当と字数換算する．査読意見に応えて加筆する場合も，全体字数が制限以内に収まるように調整すること.

14. 原稿の書式にかんして不明な点がある場合は，日本社会学会編集委員会編『社会学評論スタイルガイド 第2版』を参照し，それに即すこと．当該冊子は日本社会学会事務局にて発売・販売されている．本文は日本社会学会のホームページ上でも閲覧することができる.『社会学評論スタイルガイド 第2版』に依り難い事例，事項がある場合には，事前に編集委員会に相談すること.

〈立教比較文明学会 編集委員会〉
〒171-8501 東京都豊島区西池袋3-34-1
立教大学 池袋キャンパス ロイドホール（18号館）
HP : http://www.rikkyo.ac.jp/hikaku-bunmei/